

## 教育研究支援基金の経緯と現状

学内幹事 關 金一（昭和 56 年応化卒）

先の総会で承認されました「横浜国大工学部化学系同窓会（国大化学会）教育研究支援基金」が実質的にこの 4 月から運営されており、その経緯と現状につきまして、更なるご理解をいただきたくここに説明します。事の発端は三同窓会合同に伴います、各同窓会資金の運営にあります（会誌 1 号 P.9-11 参照）。その運営の柱として以下の基金が設立されました（以下規定）。

### 〈横浜国大工学部化学系同窓会（国大化学会）教育研究支援基金 規定〉

- (1) 「国大化学会教育研究支援基金」は横浜国大工学部化学系の教育研究の支援を目的とし、横浜国大工学部化学系同窓会（略称：国大化学会）が運営を行う。
- (2) 「基金」の事務局は、同窓会事務局とし、随時、支援プログラムの受付を行なう。
- (3) 同窓会内に化学系教員からなる運営グループ（「基金運営グループ」という）を設け、当該運営グループが資金の運用を計画する。
- (4) 事務局は、(2) 項の受付を行なった場合には、(3) 項の「基金運営グループ」の責任者に報告する。
- (5) 「基金運営グループ」の責任者は、国大化学会執行役員から選出される。
- (6) 資金の運用計画は、国大化学会役員会に諮り、承認を受ける。
- (7) 「基金」の会計監査は、国大化学会の監査と同時に進行する。

- (8) 「基金」の継続、発展に鑑み、国大化学会からの継続的な資金サポートを行う。

物質工学科化学系の教育運営の支援プログラムの第 1 号として、現場の先生方のご提案により、この 4 月より以下のプログラムが施行されています。

### 〈研究発表支援プログラム〉

学生および教員が学会発表を行う際の参加登録料を上限（各年度の応募数に応じ年度初めに決める）を設け支援する。

受付は 4 月、7 月、10 月、1 月末に行い、翌月に支援金を支払うものとする。年度予算を超過する場合は受付を年度途中で中断することもある。

4 月には 10 件あまりの申請があり、総会で授与式を行いました。支援を受けた学生からの声がありますのでご参照ください。今後は新たなプログラムを学内外から受け付ける予定ですので、積極的にご提言いただければ幸いです。基本理念は同窓会が大学に何ができるかという問いかけであり、同窓会による大学支援のプロトタイプとすべく、発展をさせていきたいと考えております。このような試みは大学内外でも例がなく、他の工学部同窓会や他学部同窓会の注目が集まっています。この基金活動の成否もひとえに同窓会諸氏のご支援にかかっており、更なるご協力をここにお願ひする次第です。

## 教育研究支援を頂いて

小林 孝徳（博士後期課程 1 年）

現在關金一先生の下で勉強させていただいております小林孝徳と申します。固相における光化学反応の解釈や動力学などを、分子軌道計算などを用いて研究しております。

私は、この度幸いにもよいデータを得ることができまして、今年 6 月初旬に札幌で行われました「第 24 回化学反応討論会」に出席させていただきました。その際、「国大化学会同窓会教育研究支援基金」により参加費の

支援をしていただきました。はじめに、支援をしていただいたこととお礼申し上げます。

私の周りには学会の出席についてあまり積極的でないものが少なくないように思われます。この理由として、費用の問題は無視のできないものです。関東近県での開催であれば、電車に乗って会場に…ということも可能でしょう。このようにすれば少なくとも宿泊代は抑えることができます。しかし、関東を越えた場所での開催とな

ると、宿泊を前提とした計画にならざるを得ません。また、交通費も相当かかることとなります。

このような理由のために、せっかくの発表の機会が少なくなってしまうことはとても残念なことです。なぜなら、このような発表の場は、もちろん本人の学術研究の成果をお披露目することも重要ですが、このような場のために成果をまとめること自体が、文書作成能力やプレゼンテーション能力の経験の場になるものと考えから

です。また、自分の研究を通じて、さまざまな人とつながりができることも無視するべきではありません。研究について意見交換をすることで自らの研究をより深く捉える

ことはもちろん、分野の似ているほかの人の研究を知ることができることもメリットだと考えます。

このような形での支援が増えれば、よりたくさんの学生が学会などに出席しやすくなり、研究の雰囲気に触れる一助になるものと思われ

ます。ところで、遠方における学会において、一番お金がかかるものといえば、宿泊代を除けば交通費になると思います。実際今回の私の例をとりましても、参加費に対して、少なくとも10倍の交通費がかかっています。交通費、宿泊費も含めた支援策などがあれば、より学会が身近になるのではない

平成 20 年度 国大化学会教育研究支援基金 状況

年度		締切日	応募人員	金額	小計	年度実績
平成 20 年度	第一回	4 月末	9	44,000		
	第二回	7 月末	13	77,000	121,000	121,000